## 津波と原発による被災地を見学して

藤枝　大学生　岡崎航平

石巻市は津波によって１７００世帯が消失し、死者は３０００人余りにも及び、津波の被害が最も深刻だった地域の一つです。避難場所の日和山は海抜５６．４メートルで、震災当時日和山は津波によって海の中に孤立する形となりました。住民はここで津波が沿岸にあった日和大橋の一番高い所をかすったのを見たそうです。その大橋は１８メートルの高さでした。

日和山のふもとには石巻市立門脇小学校があり、震災当時は火災が発生していました。学校のグラウンドやプールには瓦礫や車が山のように堆積しており、多くの遺体がここから発見されたそうです。

私達が訪れたときはグラウンドで女子中学生がソフトボールの試合をしていました。彼女達にとっては、卒業して間もなく学校の校舎が焼けてしまい多くの遺体が発見されたグラウンドでこうして部活動を再開することなり、その心境は複雑なのではないかと私は思い眺めていました。

石巻は日本有数の漁港で、魚市場や練り物工場等が点在していましたが、津波によって破壊されてしまいました。残った魚や加工品等も冷凍庫が壊れたため腐ってしまいました。被災地にボランティアに来た人の最初の仕事は冷凍庫の中に入った泥と魚を引っ張り出す作業だったそうです。

日和山から見ての海から反対側の市街地は町がほぼ水浸しになっており、川にかかっていた橋には船が突き刺さり、瓦礫が堆積し、多くの遺体も発見されました。中州にある漫画家の石ノ森章太郎マンガ館も被害をうけました。

地震発生後、食料調達のためにコンビニに立ち寄ったために津波にさらわれた人や、津波から家族を助け出そうとして津波にさらわれた人もおり、本当にほんの少しの判断で生死が分かれてしまったというのは酷いことだと思いました。

仮設住宅では１７００世帯がひとつにまとまって移り住むということは不可能で、皆それぞれ別々の仮設住宅地で暮らすこととなり、地域の子供会も解散に追い込まれ、学生は付近の学校の空いている教室を使い授業をつづけましたが、それができない生徒は他県に引っ越しするしかないというこ

とも聞きました。地域のつながりが崩壊してしまったということでした。しかしこういった状況で高校生、中学生等が高齢者の住む仮設住宅に訪れ話を聞かせてもらったりするだけでも高齢者にとっては心の支えにもなり。地域同士がつながりを作れるような活動が重要になってくると思います。

石巻市立門脇小学校は左右が寺に囲まれている形になっており、寺の本殿や墓の遺骨等は流され、墓石は破損していましたが、境内に火災によって枯れてしまったアカマツが一本あり、コカリナという楽器の第一人者である黒坂黒太郎さんが発起人となって、そのアカマツを使ってコカリナを製作し生徒達や卒業生に贈り、生徒達でコカリナの演奏を披露したということでした。

福島では放射性物質の汚染がほとんどない種類の魚に限って、試験操業として漁を再開しています。しかしそれも最近の汚染水漏れで中断してしまいました。農業も作物が放射性物質を吸収しないような努力を続け、市場に出回っている商品はおそらく安全だろうと思われますが、消費者は万が一でも被曝の可能性がある商品をあまり買おうとはしません。

農業では食料を生産するとともに、地域の自然環境を保護するという役割もあり、その役割をお金に換算すると日本の国家予算に相当するような金額になるそうです。又農業でも漁業でも環境破壊を最小限に抑えるよう努力を続けてきたはずです。原子力発電によってその努力が踏みにじられたように私には思えてなりません。福島は津波の被害が甚大だったとはいえ、原発の事故さえ起らなかったならばもっと復興は進んでいたはずです。

今回被災地を福島、高知の高校生、大学生と一緒に視察できたことは本当に良い経験となりました。自分と同世代の若者の姿を見ていると希望が湧いてくるような思いがします。

高知の幡多ゼミナールは被曝船調査や韓国との交流、福島の種まきウサギは朗読等々の活動を応援すると同時に、わたしもエバーグリーンの活動にいっそう意欲を持って取り組みたいと思いました。

先生方、案内してくださった方々、映画撮影の方々もありがとうございました。